



## 子どもが被害者や加害者になる事例の増加

令和2年に、SNSを利用して犯罪の被害者となった18歳未満の子どもの数は、過去2番目の多さを記録しました。また、令和2年度、小中高校等におけるいじめの認知件数が前年度より減少しているにもかかわらず、このうちパソコンや携帯電話等を使ったいじめ（いわゆる「ネットいじめ」）の認知件数が、過去最多を記録するなど、子どもが、インターネット利用により被害者や加害者になってしまふ事例が増加しています。

特に、SNSの普及にともない、匿名のまま不特定多数に向けて特定個人の悪口を書き込むといった、ネット上の誹謗中傷（ひぼうちゅうしょう）が社会問題になっています。



SNSに起因する事犯の被害児童数

平成28年	1,736人
令和2年	1,819人

（警察庁（2021）『令和2年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況』参照）



ネットいじめの認知件数

平成28年度	10,779件
令和2年度	18,870件

（文部科学省（2021）『令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査』参照）

## 思いやりの心で、正しい利用を心がけよう！

SNSは、誰もが気軽に匿名で投稿できますが、たとえ匿名であっても、SNSの向こう側にも同じ人間がいることを想像し、思いやりの心をもって、正しい利用を心がけましょう。

「誹謗中傷するとどうになってしまうのか」、「万一、誹謗中傷を受けた場合の対処方法」等を下記の総務省ホームページで知っておきましょう。また、ここでは、フィルタリングやインターネット上の海賊版対策など、家族で知っておいてほしい内容がイラストを用いてわかりやすく解説されていますので確認してみましょう。

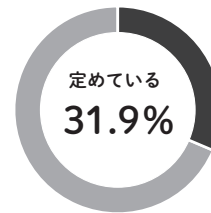
## 「わが家のきまり（家庭ルール）」をつくろう！

インターネットを利用するときの「わが家のきまり」はありますか？インターネットを取り巻く危険から子どもを守るためには、家庭内で話し合ってきたまりをつくり、それを守ることがとても大切です。

以下のポイントや例を参考に、それぞれの家庭に合ったきまりにしましょう。



スマホを利用する際のマナー（誹謗中傷することは書かない等）についての利用ルールを定めている18歳以下の子をもつ保護者の割合



（東京都（2021）『家庭における青少年のスマートフォン等の利用等に関する調査』参照）



## 「わが家のきまり」をつくるポイント

- ・家族全員が納得できるよう話し合しましょう。
- ・日ごろから家族で「きまり」が守られているのかを確認し合い、守れている子どもをほめましょう。
- ・守れなかった時の対応も話し合っておきましょう。
- ・家族みんなが守れる「きまり」にしましょう。
- ・子どもの成長に合わせて見直しましょう。
- ・フィルタリングを活用しましょう。
- ・大人自身が、ネットの適切な使い方についての知識を深め、正しい使い方を子どもに見せましょう。



## たとえば、こんな「わが家のきまり」

- ・食事中は使わない。
- ・SNSは、家族など本当に必要な相手に限り使う。
- ・トラブルがあったら保護者に相談する。
- ・知らない人とは直接会わない。
- ・午後\_\_時以降は、使用しない。
- ・毎日の利用は\_\_分まで。
- ・アプリのダウンロードは、保護者が確認したうえで行う。
- ・名前や顔写真、学校名など個人が特定できる情報は書かない、のせない。
- ・誹謗中傷は、絶対しない。
- ・学校など使用が禁止されている場所では使わない。
- ・「ながらスマホ」はしない。



## 子どもをネット上のトラブルから守るのは保護者

子どもにインターネットを利用させる際の保護者の責務が法律で定められています（青少年インターネット環境整備法第6条）。保護者は、インターネットの危険性を認識し、子どもの利用状況を適切に把握するとともに、フィルタリング等の方法により子どものインターネットの利用を適切に管理し、子どもが自らインターネットを適切に利用できる能力を身につけられるよう、教育する義務があります。

### お役立ち情報

総務省「上手にネットと付き合おう～安心・安全なインターネット利用ガイド～」

インターネットトラブル事例集のほか、SNS等による誹謗中傷、フィルタリング等の特集記事が掲載



東京都「こたエール」

ネット・スマホのトラブルについての相談

☎ 月～土 15:00-21:00 日・祝日・年末年始

☎ 0120-1-78302 ※他、メール・LINE相談あり



八王子市立中学校 PTA 連合会 制作動画  
「スマホを置いて会話を取り戻そう」  
「スマホとコミュニケーションと子ども」

